

# 寺報

No.643

令和3年3月

蓮華寺  
發行

## 御聖訓

只今も一念無明の迷心は磨かざる鏡なり。是を磨かば必ず法性真如の明鏡と成るべし。

『一生成佛鈔』



### (解説)

昔から、人は自分の事はともかく他人の事に対しては批判したがるものです。

そして、自らの事には目を向ける事なく、反省する事を忘れがちです。

お釈迦様は、我々には生まれながらにして『仏性』という宝物が与えられていると教えています。

しかしその事に気付かず、ただ「あの人は金持ちだから」「この人は頭が良いから」と他人をうらやむ人がいかに多い事でしょうか。

せっかく、仏に成れる『仏性』を持ちながら、なぜ皆その事を自覚しないのでしょうか。

日蓮大聖人は「我々の迷いは磨かない鏡のようなのだから、これを法華経・お題目の修行によつて磨いたなら曇りなき素晴らしい明鏡となるだろう。」とお教えになりました。

当山では、今月『お彼岸と星祭』の行事が行われます。

どうか、お寺で自ら懺悔滅罪し、皆様の心の曇りを磨き、本来持つ『仏性』を出せるようにしていきたいと思います。

# 『春彼岸会』『星祭』

## 十七日(水)・二十日(土)・二十三日(火)

水 行・・・昼十二時半 大本堂前

法 要・・・午後一時 大本堂

法 話・・・約十分間

番	十七日	加藤上人
当	二十日	對馬上人
話	二十三日	住職上人
法		



④『春彼岸会』と『星祭』の法要は三日間ですが、先祖供養は、残り四日間『朝のお勤め』の中で読み上げさせて戴きますので、ご安心下さい。なお、合わせて星(劍守札)もご祈祷します。

### 法要次第

- 一、勸 請(導師が唱えます)
- 一、開 經 偈(無上甚深微妙の)
- 一、お 經(漢字読み)

〔序品第一〜方便品第二〜如来寿量品第十六  
【自我偈】〜如来神力品第二十一〜觀世音菩薩普門品第二十五〜咒陀羅

- 一、御 祈 禱(法樂加持)
- 一、御 妙 判(如説修行鈔)
- 一、お 題 目(南無妙法蓮華經)
- 一、宝 塔 偈(此經難持)
- 一、星 祭 祈 願(導師が唱えます)
- 一、お 經(自我偈・漢字読み)
- 一、お 題 目(南無妙法蓮華經・僧侶は供養の誦上)
- 一、彼 岸 回 向(導師が唱えます)
- 一、四 誓(衆生無辺誓願度)
- 一、お 題 目 三 唱

【法 話・・・約十分間】

以上

④ご祈祷のお経は速く読みますので、ご了承下さい。

## お寺からのお知らせ

### \*先祖供養(一週間)・・・八百円

お彼岸の先祖供養は、お彼岸前に申し込みますと、一週間、またその後に申し込んだものでも、「彼岸明け」まで供養を続けさせて戴きます。どうか、ご供養は出来るだけ、お彼岸前日迄にお申し込み下さい。

### \*追 膳(一週間)・・・三千五百円

お彼岸の追膳は『位牌堂』、三階『永代供養堂』、また、お預かりの『お骨』に一週間上がりします。「彼岸入り」以降のお申し込みも受け付けますが、期間中、一日だけという(特定の日)の受付はしておりませんので、ご了承下さい。また、追膳は数に限りがありますので、お早目にお申し込み下さい。

### \*劍 守 札(星)【一体・二百円】

④星(劍守札)のお申し込みは、専用の申込書にお名前と性別・生年月日をお書きの上、お早目にお申し込み下さい。なお、宗派は問いません。

## 「星」(劍守札)を 申し込みましょう!

当山では『星祭』の期間中、一週間、皆様のご家族のお名前と性別・数え年を記入しました「星」(劍守札)をお祀りして、その年の善星が皆来し、悪星が退散し、一年間無事安泰でありますようにと祈願します。その為に、当山僧侶が、十七日の彼岸の入り・二十日の中日・二十三日の明けの三日間、水行をし心身を清めてから、ご祈祷をします。

「星」はいわゆる「日曜星」土曜星の七曜星に、太陽と月をささぐる「羅喉星」、彗星である「計都星」を加えました「九曜星」を、皆様の年令と性別によって配当していきます。

それで、我々はその年の自分の運勢を知り、これを元に行動し、更に法華経・お題目の信仰を持つ事によって、より一層安心した人生を送れるのです。

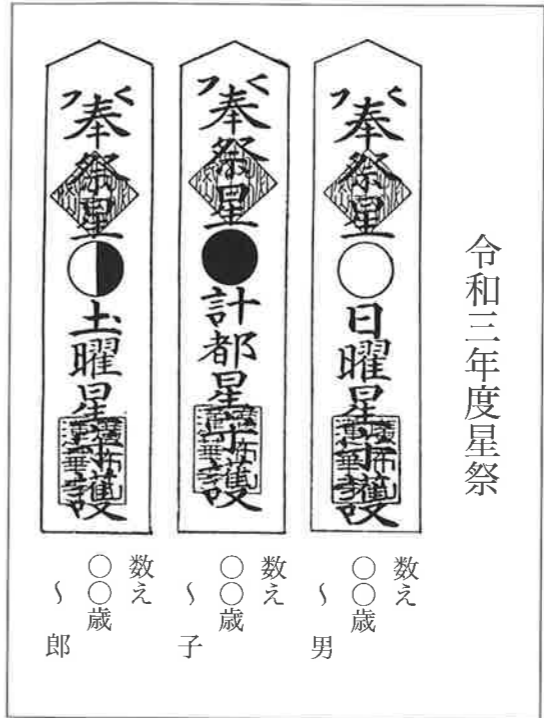
どうか、檀信徒の皆様は是非とも毎年この「星」(劍守札)をお申し込みになりますようにお願いいたします。また、今までお申し込みしていなかった方も、今年よりよろしく願います。

# 星（劍守札）のまつり方

お寺より「星」を戴きましたら、そのままにして置かないで、必ず厚紙に貼り、各自の数え年と名前を書き、自宅の御寶前か仏壇の下の方にお祀りして、毎朝拝むようにして下さい。

また、昔より仏問のカモイに貼る家庭もあります。とにかく、一年間大事にお祀りする事が大事です。

## 令和三年度星祭



数え 〇〇歳 男  
 数え 〇〇歳 子  
 数え 〇〇歳 郎

※なお、五枚まで貼れる専用の台紙も、五十円で事務所にて販売しております。

# 水行

当山の本寺に当ります、京都大本山『妙顕寺』開山の日像上人が、日蓮大聖人の帝都（京都）開教のご遺命を受けるに当り、妙法広布の大願成就を祈念すると共に、またいかなる法難・堪え忍ぶ事が出来る心身を養う為に、鎌倉由比ヶ浜の海に浸り、百日間法華経誦・唱題をされたのが、日蓮宗の水行の始まりといわれています。

日蓮宗の『大荒行堂』では、毎年十一月一日から翌年二月十日までの百日間、午前三時より午後十一時までの一日七度の水行が行われます。

本来水には靈気があるといわれ、水をかぶる事で自らの罪障消滅をし、忍難受苦の強い精神を養うのです。そして、諸天善神のお力をかり檀信徒の皆様に加持祈禱し招福除災を祈念するのです。

このように、日蓮宗の水行には重要な意味があるのです。当山では『星祭』の期間、当山僧侶が三日間水行しますので、どうか参拝して戴き、更にご祈禱をお受け下さいますようお願いいたします。

# 『靈断』

檀信徒の皆様で、何か困り事や悩み事がありましたら迷わず蓮華寺までご相談下さい。

日蓮宗に伝わる秘法『九識靈断法』にて、当山僧侶が解決、ご指導します。

なお、宗旨宗派は問いません。

必ずご予約下さい。(☎七七六一五八四〇)まで  
 [一件・・・三千元となります]

# 『聖徒団会員』募集！

毎月ついたちの「盛運祈願会」の中で、当山住職が各会員の『家内安全』をご祈願致します。

その他、大本堂御寶前のお花、皆様にお配りする新聞『聖徒タイムズ』・寺報等の援助などに活用します。

会費・・・年額二、四〇〇円(月二百円)

# 『提灯』募集！

当山で『お正月』『鬼子母神大祭』『御会式』に下げます『提灯』(トロー)を募集しています。

作成価格は八千円、年間の管理費が二千円ですので、初年度は一万円となります。

# えはんねそんしゃく 会繁涅槃尊釈

三月十三日(土)

午後一時より

場所：大本堂



※お釈迦様がお亡くなりになられました、祥月命日の日です。

※十三日講のお勤めの中で、一緒に執り行います。

※お供物をお受けします。

### 三月の行事

- 一日(月) 盛運祈願会 午後一時より
- ・お守り【霊神符】の交換の日です。
- ・自ら進んでお勤めに参加し、お経を唱えましょう。
- ・聖典(お経本)と数珠は必ずご持参下さい。
- ・蓮華寺檀信徒の方は、必ず【霊神符】をお持ち下さるようお願い致します。



十一日(木) 鬼子母神小祭

朝のお勤め中

十三日(土) 日蓮大聖人のご命日

午後一時より

- ・お経 如来神力品第二十一 (訓読・日本語読み)
- ・お経 如来寿量品第十六 (真読・漢字読み)
- ・皆様も日蓮大聖人さまの御報恩を忘れずに参拝し一緒にお経・お題目を唱えましょう。

十三日(土) 釈尊涅槃会

午後一時より

十七日(水) 甲子【大黒様の日】

朝のお勤め中

『春彼岸会』・『星祭』【三日間】  
十七日(水)・二十日(土)・二十三日(火)

【水行】 昼〇時半より  
【法要】 午後一時より

### ☆奉仕のお知らせ

十五日(月) 星祭の準備 男女共・午前十時より  
\*星祭の祭壇、水行等の準備

十七日(水) 【彼岸入り】 男女共・午前十時より

二十日(土) 【彼岸中日】 男女共・午前十時より

二十三日(火) 【彼岸明け】 男女共・午前十時より

②『春彼岸会・星祭』の行事は三日間ですので、ご奉仕とご参拝は日程・時間をお確かめの上、お願い致します。

また「水行」のお手伝いは、人手が沢山必要ですので、一日でも多くご奉仕下さい。

特に二十三日(火)は星祭のお札を渡す日ですので是非ともご協力をよろしくお願い致します。



### ☆『春彼岸会の追膳』

十七日(水)〜二十三日(火)まで一週間

『お彼岸の追膳』のお手伝いは一週間、朝【午前六時〜七時半頃迄】夕【午後三時〜五時頃迄】ですの  
でお手伝い出来ます方は時間までご集合下さい。

②お手伝い希望の方は、教宣部員以外でも歓迎しますので、どうぞ時間までご集合下さい。

- ◎奉仕部長 山田兼補 ◎伝道部長 小野正春
- ◎教宣部長 杉淵昌三

### ☆『永代供養塔』のご供養

境内に安置しています『永代供養塔』『水子観音像』『動物供養塔』の(彼岸供養)は、二月二十日(土)の午前十時三十分より、住職がご回向しますの  
で、ご一緒に参拝出来る方は、時間までにお越し下さい。  
時間は約三十分くらいです。

☆三月まで、檀信徒研修会  
はお休みです。

### 「寒修行」終了す

本年、一月五日から二月一日までの二十八日間に渡り行われました「寒修行」は、皆様のご協力により無事終了する事が出来ました。

今年は大雪に吹雪、連日の零下の気温、更にコロナ感染の危険と大変な状況が重なり、非常に厳しい修行となりました。

それでも、多くの皆さんが頑張つて参加してくれました。

本来、修行とは誰の為でもなく、自分の為に行うものですが、その僧俗一体となり一心に修行しているお姿は、正に異体同心、ご本仏様そのもののお姿でした。どうか来年度からは、いまだ参加した事のない方々も「寒修行」に参加してみてください。

まず、何よりも実行してみる事が大切です。

なお、今般も法務ご多忙の中、導師を勤めてくれました住職・加藤・對馬・埴・角田堯悠の各上人に於かれましては、誠に有り難うございました。

また、参加された皆様も、どうもご修行ご苦勞様でした。

# 『春彼岸会』 『星 祭』

三月

十七日（水）・二十日（土）・  
二十三日（火）の三日間

水 行・・・・・・・・・・昼十二時半より 大本堂前  
\*檀信徒の皆様への応援をよろしくお願いします。



妙見菩薩



法 要・・・・・・・・・・午後一時より 大本堂  
法 話・・・・・・・・・・約十分間 法要終了後  
(先祖供養、追膳、星【剣守札】、供物は受付中)

\* 『水行』『法要』は彼岸の入り・中日・明けの三日間ですので、檀信徒の皆様もご注意の上、ご参拝下さい。なお、ご供養は残り四日間「朝のお勤め」の中で御回向します。